

がん診療連携拠点病院指定更新 推薦意見書

富 山 県

富山県においては、平成18年度の指定以来、県がん診療連携拠点病院である富山県立中央病院と7つの地域がん診療連携拠点病院が、「富山型がん診療体制」を構築し、各病院が有機的に連携・協力して、県全体としてのがん医療の基盤整備を行ってきました。

結果として、県全体としてのがん診療実績及びがん登録が増加したほか、各病院では医師・看護職員等が専門分野でスキルを習得する育成体制も急速に確立し、それぞれ各医療圏における中核的がん診療拠点として大いにその役割を果たしております。

一方で、現状、高齢化が進展する富山県のがん罹患率は全国を上回って推移している上、今後も高齢化に伴うがん患者の増加は避けられません。将来を見通したがん診療体制の維持のためには、がん診療連携拠点病院には、引き続き、医師・看護師等のがん専門人材を育成しつつ良質ながん診療を提供し続ける役割を担う必要があると考えています。とりわけ、高齢がん患者に対応するには、集学的医療はもとより、緩和療法及び在宅療養支援を効率的・効果的に提供できる医療体制の構築が不可欠であり、各医療圏内において拠点病院相互の役割分担と連携の一層の深化が求められます。

さらに、がん診療連携拠点病院は本県の救急医療の根幹を担っていますが、高齢化の進展に伴い、今後とも、救急医療の需要は増加していくものと推計されることから、増加の一途を辿ると予測される救急需要に適切に対応するためにも、がん診療連携拠点病院の施設規模、人員体制の確保に努めることが大変重要であると認識しています。

このようなことから、本県のがん診療体制を維持・強化することによって、県民が適切ながん医療を享受できるよう、診療体制の更なる充実に努めるとともに、がん医療水準のさらなる向上を図っていくこととしたいと考えておりますので、今回推薦する8病院の指定更新につきまして、特段のご配慮をお願いいたします。

添付資料

- 別紙1 富山県におけるがん患者の現状と将来動向
- 別紙2 「富山型がん診療体制」の実績
- 別紙3 救急医療の根幹を担うがん診療連携拠点病院

富山県のがん診療体制

